

池田文書の研究 (四)

池田文書研究会

第六四五号文書 緒方洪庵書状 池田多仲宛

*〔斉藤〕

此度外国より御取入ニ相成候御書籍数部有之候趣ニ御座候処、医学所ニは是迄御書籍甚乏敷、教導方大ニ差支、難渋仕罷在候間、何卒字典類医書類御下ケニ相成候様、此度就中

ボムホフ和蘭字典

右は別て必用之品ニ御座候ニ付、是非共五部丈ケ、医学所へ御下ケニ相成候様仕度、依之懸り御目付申談、此段奉願候、以上此段外国奉行へ被仰付被下置度奉願候、依之懸り御目付申談奉申上候、以上

右之通にてハ如何、御考之上可相認可被下候

太仲様

洪庵

(一) 医学所：お玉ヶ池種痘所の後身。文久三年（一八六三）二月十五

日改称。

(二) ボムホフ和蘭字典：Dirk Bomhoff（一七九二～一八六〇）編纂のオランダ語辞典。

*〔〕は判読、翻字作業を行った会員名を示す。

第六四六号文書 緒方洪庵書状 池田多仲宛

〔斉藤〕

昨夜御帰宅後、少々御風邪之よし承り候ニ付、今朝一応御伺ヒ

可申と乍存、出勤懸ケ差急キ打忘レ外出恐入申候、折角御加養所祈御座候、扱昨日は色々御心配相懸候上、結構之御祝被下、殊ニ又一回へ御料理等被下候よし難有奉存候、乍併御厄介ニ相

成候上種々御配慮却て奉痛入候、然は昨晚松本良甫へ用向有之

立寄申処、種痘役割之事ニ付、奥詰四人打寄示談いたし度事有

之候間、明後廿二日ハ佐田・川島両所も必ス種痘時刻出勤有之

様達し呉との事ニ御座候、今朝此事も可申上管之処、前文之次

第、失念無申訳次第、何卒宜ク御取計御願申上候、万々明日帰

宅之上可申上候、草々已上

九月廿日 御城方

御城方

多仲様

洪庵

(一) 松本良甫：幕府裏医師。松本良順の養父。

第六四七号文書 緒方洪庵書状 池田多仲宛

〔斉藤〕

先達て種痘各段骨折候ものえ御褒美願ヒ書付差出候節、出張所

之分調落ニ相成候様被存候、其節之案文見度旨、昨夜月岡・冬

島兩人へ申置候処、今日何之沙汰も無之候、右案文一応御調べ

被下候様御願申上候、もし愈々調落し相成居候事ナレハ、如何

御取計可申もの乎、御考奉希候

洪庵

太仲様

(一) 月岡：月岡勝二郎。『日本医史学雑誌』三十五卷三二五頁参照。

第六四八号文書 緒方洪庵書状 池田多仲宛 [矢部]

前略法印急ニ御目ニ懸リ被申度事有之候よしニ候間、乍御苦勞
即刻御出可被下候、以上

四日

太仲様

洪庵

第六四九号文書 緒方洪庵書状 池田多仲宛 [斉藤]

昨夜は御苦勞奉謝候、十三軒へ之各状へ深更ニ相認、今朝部屋
之ものニ為持夫々遣申候、御安心可被下候、扱拙生仮住居之事
も願之通ニ、昨夜深更ニ被仰付申候、早々引移り候積にて候、
万端宜ク御頼申上候、いづれ無程参上、万々御示談可申上とハ
奉存候へ共、一応鳥渡申上候、草々已上

九月二日

太仲様

洪庵

(一) 仮住居：文久二年、洪庵の江戸下向に際しての仮住居か。

第六五〇号文書 緒方洪庵書状 池田多仲宛 [斉藤]

昨日神戸へ見舞申候、必死不可救症と被存申候、患者へ頻りニ
水気の事、不食之事早く治し候様との頼ニ御座候、可然考も
有之候間、尊上御相談可申と申置候、其御心得にて程よく御あ
しらい置可被下候

廿八日

太仲様

洪庵

第六五一号文書 緒方洪庵書状 池田多仲宛 [斉藤]

御書籍願書草稿如何

屯所大病人引受之伺書も試ニ相認候故入御覽申候、御書籍之方
ハ早く差出度候間、思召次第早々相認候様可申付奉頼候

七日

太仲様

洪庵

(一) 屯所：文久三年に設置された歩兵屯所か。

第一四三四号文書 桂川甫周書状 池田多仲宛 [遠藤]

(端裏書き)
種痘所にて

池田多仲様

桂川甫周

以手紙啓上仕候、然は接遇所にてシーボルトを被贈候ブリーフ
差出候、可然被取計奉頼候、草々以上

十月廿一日

尚々先過て御回状被下候シーボルトを種痘所へ贈候手紙翻訳、
御手元ニ有之候ハ、兩三日拝見仕度、不苦候ハ、此者へ御渡可
被下候、以上

(1) プリーフ…Pencil手紙。
(2) 種痘所…お玉ヶ池種痘所。

第一一四五号文書 竹内女同書状 池田多仲宛 [酒井豊]

御安静奉賀候、然は御小姓田村肥後守殿御小兒様種痘被成度、
今日御出被成候間宜奉頼候、尤此間永田宗見(一)にも相頼置候得共、
何卒能なれ候人え御頼被下候様奉頼候、草々不具

竹内女同

池田太仲様

(一) 永田宗見…お玉ヶ池種痘所設立に際して拠金した蘭方医の一人。
医学所種痘役。適々齊姓名録(第一四四号)にその名

がみえる。

第二四九三号文書 林洞海書状 池田多仲宛

(端裏書き)
池田多仲様

林洞海

[遠藤]

いづみはしあかり伊東様南のよこ町

以手紙啓上仕候、然は私義御用之義御座候付、明十三日四時西
丸え可罷出旨、御用番本多美濃守様御達之旨主人小笠原右近
將監申聞、御用之程付難計候へとも難有仕合奉存候、
右御風聴申上度如此御座候、以上

九月十二日

猶以種痘館連中ニ而乍御面倒御序ニ御風聴被成下度奉頼候、以

(一) 本多美濃守…忠民、三河岡崎藩主。
(2) 小笠原右近將監…忠寿、豊前小倉藩主。

第二四九四号文書 林洞海書状 池田多仲宛 [遠藤]

夜日某々寄附金五拾両為持参候付受取、即座ニ大槻迄為持遣し
置候間御聞入可被下候
愈御清適奉賀候、陳ハ糴町平川天神前御任名倉弥五郎殿、兼々
御社中ニ而館社諸先生とも御直意之御仁ニ御座候処、此度御入
社被成度儀ニ付、小生同道参上之筈ニ御座候へ共、取込中ニ付
御一人ニ而御出席ニ付何卒宜敷被取計可被下候、以上

(端裏書き)
池田多仲様

林洞海

八月廿六日

尚々一昨日ハ御来駕雖有私義未参上不仕恐入候

(一) 名倉弥五郎…名倉弥次兵衛知重の養子。慶應二年八月より歩兵屯
所医師となる。

第二四九五号文書 林洞海書状 池田多仲宛 [遠藤]

(端裏書き)
池田多仲様

林洞海

別紙添御用向

最上乘女助下屋敷ニ御葉草為植付御借受ニ相成候ニ付而ハ、別
紙下案之通証書願度段三澤良益(一)申出候、証書案ニ候へ共別段
申分も無御座候様被頼候間、今日中ニ御清書御調印被下、明日
良益出勤仕候半ニ付、其節御渡下度候、以上

四日晦日

(一) 三澤良益：お玉ヶ池種痘所設立時の掘金者の一人。
佐藤泰然の女婿。

第二四九六号文書

林洞海書状 池田多仲宛
(端裏書き)
池田多仲様

急要用

林洞海

〔遠藤〕

先刻参上之処御不在不得拝謁遺憾奉存候、陳者今日は組合集会相談可仕と相催候処、外一同は差支無御座候へ共、^(一)研齋老昨朝の遠方ニ参り今日帰宅も六ヶ敷趣、只今ニ成相動も御座候而断参候、右ニ付近日已来諸先生相談之義一向不分明之者斗ニ御座候故、乍御苦労大兄后々刻々御出被下度は是非御繰合奉願候、且帳面出来居候ハ、此者ニ御渡可被下候、以上

五月十六日

(一) 研齋：織田研齋。伊東實齋の子。

第二四九七号文書

林洞海書状 池田多仲宛
(端裏書き)
池田多仲様

金百疋包巻つ種痘之鑑札枚枚添

林洞海

〔遠藤〕

林部善太左衛門之孫男礼造當月初旬か先月下旬種痘仕候処、引つゝき大病ニ而漸此節快方ニ相成申し候、右ニ付鑑定差出し不

申候へ共真痘ニ御座候間、真痘札御遣し可被下候、右謝義として金百疋包参候間為持差上申候、是又御受取書可被下候、以上

二月廿五日

第二四九八号文書

林洞海書状 池用多仲宛
(端裏書き)
池田多仲様

勤用

林洞海

〔遠藤〕

明後十六日小生出席日ニ御座候処、當番ニ而出席仕兼候間、^(一)玄俊御相談之上外仁に出席御頼可被下候、以上
三月十四日於御城出

(一) 玄俊：大槻玄俊。大槻俊斎の子。

第二四九九号文書

林洞海書状 池田多仲宛
(端裏書き)
池田多仲様

急用

林洞海

〔遠藤〕

板摺師嶋村利助と申者一兩度差上候処、御留守之由ニ而御用不分明と申事、當人も朔日種日ニ下谷繪図餘程御入用ニも可相成と氣をもみ居候、板木出来致候ハ、明日一日ニも千枚斗は為摺申度候間、否御早々被仰聞可被下候、若只今御留守ニ候ハ、御帰宅次第御答可被下候、以上

三月廿日朝

第二五〇号文書 林洞海書狀 池田多仲宛

〔遠藤〕

渋谷玄龍と申者は私門人間玄庵と申者之在所之師ニ御座候、而昨年頃と覚居入門仕居候間、別紙之通申参候ニ付大兄之書狀并ニ金百疋硝子板差上候間、新塀を能御封し、金子請取書并ニ館之場所付老枚御添、今晚ニ而も明日昼前までに而も拙宅迄御遣し置可被下候、以上

三月六日

池田多仲様

林洞海

金百疋入硝子板添

第二五〇一号文書 林洞海書狀 池田多仲宛

〔遠藤〕

(端裏書き)
池田多仲様

林洞海

返上書蘭書老冊添

過日拝借之御珍書永々拜見難有返璧仕候、御落手可被下候、且御役所御蔵書之キリニーキ之内ニ而処方之経験見付置申度、昨日大槻ニ談し置候間一冊拝借仕度、此遣ニ御渡可被下候、尤拝借之證書等御入用ニ候ハ、御定法之文意可有之候間被仰聞可被下候、可相成は順よく初篇御かし可被下候、以上

八月九日

右之旨俗事役ニ御相談可被下候

(一) キリニーキ…Kinink 臨床。

第九六一号文書 箕作阮甫書狀 池田多仲宛

〔岩崎〕

(端裏書き)
池田多仲様

箕作阮甫

用事

景気次第相加候処、御安祥被成御過祝之儀ニ御座候、扱昨日川路より頼にて、知行所へ医者一人洋医之事修行致度、いつれかへ相頼くれ候様申事ニ御座候、右ニ付其御役所にては御差置被下候事相叶可申や、御容子相伺候、然ながら、貧生之事にて月俸無之方望之由ニ御座候間、是又如何可有之哉、委曲御しらせ被下度奉存候、其御役所にて御故障有之候共、何レかへ向口有之候ハ、是又御申付被下度御座候、右御容子相同度如此御座候草々頓首

六月九日

第九六二号文書 箕作阮甫書狀 池田多仲宛

〔岩崎〕

(端裏書き)
池田多仲様

箕作阮甫

病用

続て不正之天氣御座候処、御安祥之段拜嘉候、秋坪子供過日は御覽被下難有奉存候、兄之方は次第快候処、次男愈衰弱甚敷、下利は先づ相止候へ共、食ニ向ひては嘔氣有之、舌上は淨潔ニ御座候へ共、食気少く、渴のミ多く御座候、虫を兼候哉と被存候、右付サントニネ相用度、右服量は七八歳小兒にて幾何許相用事哉、薬性論之外医書無之処、薬性論ニはサントニネは無之哉ニ被存候、何卒服量一寸御しらせ被下度、今明日御序之節御見舞被

下、何レ御葉頂度御座候、拙術にては心配計りにて、効能難期御座候、何卒御診察御葉御もらひ申度奉存候、右得貴意度、草々以上

八月五日

- (一) 兄：箕作秋坪の長男奎吾か。
(二) 次男：秋坪の次男(菊池)大麓か。

第九六五号文書 箕作阮甫書状 池田多仲宛

〔岩崎〕

(端裏書き)
池田多仲様

箕作阮甫

用事

春寒難去御座候処、愈御安祥被成御渡相慶候事ニ御座候、然は老生事、先頃以来レウマチスコールツにて平臥罷在御座候、新禮御歎ニも罷出失敬仕候、扱懸御目相願度一条有之、何卒方角御出之御序も有之候ハ、一寸御立寄相願度御座候、如何可有御座哉相伺候、相成候ハ、今日ニも一寸御来駕奉願候、尤御ひま取候事ニは無御座候間、何分御聞取被下度御座候、右得貴意度草々頓首

正月廿五日

(一) レウマチスコールツ：Rheumatis-koorts リウマチ熱。

第九六六号文書 箕作阮甫書状 池田多仲宛

〔岩崎〕

(端裏書き)
池田多仲様

箕作阮甫

秋寒次第相増候処、御安祥被成御座候敬祝至奉存候、然は秋坪妻夏日之容体にて、又々腫氣相増し、松本相願候処、遠血デキタリス等煎劑相用ひ候処、昨日頃より嘔氣有之、今日は一飯も用ひ不申、甚た心痛仕候、何卒御閑暇御座候ハ、御一診御投薬奉願度、尤今日は少し小水も分量多く相成候様申候、何分御覽之程奉願候、以上

九月卅日

- (一) 秋坪妻：箕作阮甫の次女つね。

第九五四号文書 箕作秋坪書状 池田多仲宛

〔岩崎〕

(端裏書き)
多仲様

秋坪

謹啓、時下寒氣相増候処先以益御清安被為入欣喜之至奉恐祝候、誠ニ御無沙汰に仕恐入候、只々御海容被下候様奉希候、扱先達ても相願候通り、阮甫容体書別紙之通差出申候間、宜御含置可被降奉希候、実以薬相願可申本意ニ御座候得共、俄ニ相更候付、彼是取込、乍畧御書中如此御座候、尚方其内拝眉可申上候、草々不乙

十一月六日